

報告タイトル

習近平への権力集中は起こっているのか？—中管幹部による汚職の司法過程に着目して—

Is Xi Jinping's Authority over the Political Elite Growing?

: Focusing on the Judicial process of High-ranking Official's Corruption Cases

氏名(所属)

内藤寛子(アジア経済研究所)

NAITO Hiroko (Institute of Developing Economies)

要旨(800字程度)

「トラも蠅も叩く」というスローガンのもと、習近平は政権発足当初から大々的な汚職撲滅キャンペーンを展開した。このキャンペーンは3期目の習近平政権においても見られており、権力基盤確保のためだけではなく、習近平への権力集中にも寄与しているとの見方が強い。これについて、先行研究の多くは習近平の政策志向や組織改革に注目してきたが、本研究は汚職幹部の司法過程という政策実施に関するデータをもとに習近平への権力集中の様相について検証する。

本研究は、2014年から2023年までに摘発された幹部258人の①紀律検査委員会による報道、②人民検察院の起訴に関する報道、③人民法院の審議開始に関する報道、④人民法院による判決に関する報道をもとに、特に2018年に設けられた国家監察委員会の効果に注目し、習近平政権下において汚職容疑で摘発された幹部の司法過程の特徴を明らかにするとともに、習近平への権力集中が起こっているのかを検証する。ここで、国家監察委員会に注目する理由は、権威主義体制において新しい治安部門の創設は政治指導者個人への権力集中を示す要因の一つとされているからである。

本研究が明らかにしたことは、第一に、国家監察委員会の設置により、人民検察院の機能が国家監察委員会に統合され、そこでの審議時間の大幅な短縮や、不起訴の判断が出されなくなるといった人民検察院の相対的な機能低下が見られたということである。第二に、汚職幹部の政治ランクと司法過程にかかる時間は相関性を有しており、国家監察委員会の設置によりその相関性がより強くなっているということである。この二つの分析結果から、国家監察委員会の設置によって、汚職幹部に対する司法過程は、その幹部の政治ランクが高ければ高いほど政治的な判断に基づいて処理される傾向が強まったことがわかった。政策実施に関するデータから見ても、習近平への権力集中の様相は確実にあるということが言える。